

## 会長就任のご挨拶

2024年5月28日



(一社) 日本伸銅協会 会長 鬼王 孝志  
(DOWAメタルテック株式会社 代表取締役社長)

この度は会員各社のご推挙により、日本伸銅協会の会長に就任することとなりましたDOWAメタルテックの鬼王でございます。

自動車を皮切りに各需要業界がようやく回復軌道に戻るなか、世界景気回復の足踏みや、大幅な円安、インフレ傾向など必ずしも順風とは言えない中ではございますが、小林副会長、西川副会長、原田副会長と共に、会員の皆様のため、そして日本伸銅協会や伸銅業界の発展ために尽力致す所存でございますので、よろしく願いいたします。

さて、2023年度における我が国の経済を振り返りますと、経済は回復基調にあるものの「事」の消費が先行し、「モノ」への波及の優先順位が低くなる中、円安が進行し世界インフレも継続したことから、伸銅品の生産はオイルショック以来となる低水準となりました。

下期には自動車の世界生産台数の増加から製造業の回復が徐々に始まり、3年に亘るコロナ禍による景気の疲れからようやく立ち直り始めました。

そのような環境の下、私ども伸銅業につきましては2023年度、上期ではサプライチェーンでの在庫過剰感などで減速傾向が続き、下期は自動車の回復が見られ始めたものの自動車以外の様々な工業製品の在庫過剰感は解消せず、対前年割れが継続しました。

この結果、伸銅品生産量は当初見通しの74万1千トンに対し63万8千トン、コロナ期の2020年度の64万4千トンを下回る減少に見舞われました。

品種別に見ますと「板条製品」に関しましては、自動車の生産は年初に一部で操業停止が見られたものの、生産台数は昨年から回復基調にあり、今後も需要をけん引すると見られます。一方、情報家電にも使用される民生向けの半導体は、中国を始め世界的に需要が停滞しております。

これら回復と停滞が共存するなか情報化投資や、CASE関連など、今後は増加が見込まれるものと期待しております。

「黄銅棒」につきましては、これまでの低調から回復の兆しが見られ始めるなか、新規住宅着工件数や設備投資関連の停滞が継続しております。

今後は各工業製品のサプライチェーンでの在庫過剰感の解消が回復の鍵になると見られ、設備投資など回復の遅れている分野もありますが、経済の正常化に伴い、徐々に回復に向かうことが予想されます。

また、「銅管」につきましても主力のエアコン向け用途に関して、ルームエアコン需要は堅調に推移するものと期待されます。またパッケージエアコンにおいても消費者の外出機会の拡大から商業施設などの更新需要は根強く、人手不足による工期の遅れはございますが、回復基調にあると考えられます。

一方で、中国をはじめ長らく停滞していた消費についても、景気刺激策など回復も期待されます。世界経済の改善は伸銅業にとって追い風となることから、しっかりと需要をフォローしていきたいと考えております。

そのような中、日本伸銅協会では今年度、次のような点について取り組んでまいります。

- ① 会員企業の事業活動に有益となる情報共有を行うため、  
リサイクル原料の拡充に向けた未利用リサイクル原料の実態調査  
リサイクル原料の適正な流通に向けた対応（複数年）  
伸銅業における GX 化 推進のための基礎的な検討
- ② 設備保全に関する情報共有の仕組み作りや労働安全衛生の地区活動  
活性化のための支援、「育成就労制度」に係わる情報収集などの  
情報の提供につながる事業やその仕組み作り
- ③ 未利用原料の利用最大化のための協調領域における技術開発や市場  
環境・技術動向等の情報収集の実施
- ④ 低炭素社会に欠かせない「伸銅品」の認知度を上げるための活動の  
活性化 など

その他、エネルギー・電気料金、人件費や原材料対策などにも引き続き取り組んでまいります。

そして日本伸銅協会として、積極的に情報収集・発信を行っていくと共に、必要な場合には政府への申し入れを行う事も検討していきたいと思っております。

こうしてみますと、我々伸銅業には足元の問題と共に中期的な課題も多く、それらに一つ一つ取り組んでゆかねばなりません。

引き続き厳しい環境下ではありますが、会員相互の信頼関係を大切に  
しつつ、伸銅業界の社会的役割を果たしてまいる所存であります。

関係各位のご指導とご支援をお願い申し上げまして就任の挨拶とさせ  
ていただきます。